



**榎野 博史**  
(まきの・ひろふみ)

1948 (昭和23)年7月29日岡山県岡山市生まれ。岡山大学教育学部附属中学時代に英語クラブに所属したことで米国に対する関心が強くなり、県立岡山大安寺高校在学中の1966 (昭和41)年～67 (昭和42)年、米国 Emmaus High School 留学、ホームステイは1年に過ぎなかったが、米国流のフェアな精神や positive thinking を身に付けたことはその後の人生に多大な影響を与えた。1969 (昭和44)年、岡山大学医学部進学、卒業後は糖尿病性腎症の成因解明を志し、第三内科に入局した。糸球体基底膜構造と血尿のメカニズム解明に成果を見出した後、1984 (昭和59)年～86 (昭和61)年、米国Northwestern 大学医学部に客員助教授として留学、Kanwar 教授のもとでプロテオグリカンを中心に腎炎の発症機序解明に力を注いだ。帰国後は患者増が著しい糖尿病性腎症の研究に本格的に着手、有効な治療や診断法の確立に奮闘した。1996 (平成8)年、岡山大学医学部第三内科 (現 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学) 教授に就任。2009 (平成21)年4月、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科長、2011 (平成23)年4月、岡山大学病院長を経て、2017 (平成29)年4月、第14代岡山大学学長に選出された。学長に就任後は国際連合が提唱するSDGs (Sustainable Development Goals) の達成に向けて岡山大学を挙げて地域の経済界・地方自治体とともに取り組み、同大は2017年12月には第1回ジャパンSDGsアワード特別賞を受賞した。2008 (平成20)年から4年間日本腎臓学会理事長を務め、2010 (平成22)年、第53回日本腎臓学会学術総会 (神戸市) を会長として開催した。



聞き手

和田 淳

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学 教授